

403101

※※2012年11月改訂（第6版）
 ※2012年1月改訂

日本標準商品分類番号
 872344

貯法：室温保存
 使用期限：外箱に表示の使用期限内
 に使用すること

日本薬局方

承認番号	(60AM)3692
薬価収載	1979年11月
販売開始	1979年11月
再評価結果	1980年3月

炭酸水素ナトリウム

Sodium Bicarbonate

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】※※

ナトリウム摂取制限を必要とする患者（高ナトリウム血症、浮腫、妊娠高血圧症候群等）[ナトリウムの貯留増加により症状が悪化するおそれがある。]

【組成・性状】

本剤は炭酸水素ナトリウムの原末で、白色の結晶又は結晶性の粉末である。

【効能・効果】

経口：

◇下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）

◇アシドーシスの改善、尿酸排泄の促進と痛風発作の予防

含嗽・吸入：

◇上気道炎の補助療法（粘液溶解）

【用法・用量】

炭酸水素ナトリウムとして、通常成人1日3～5gを数回に分経口投与する。

含嗽、吸入には1回量1～2%液100mLを1日数回用いる。なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1)重篤な消化性潰瘍のある患者 [胃酸の二次的分泌（リバウンド現象）により症状が悪化するおそれがある。]
- (2)腎障害のある患者 [ナトリウムの貯留により症状が悪化するおそれがある。]
- (3)心機能障害のある患者 [ナトリウムの貯留により症状が悪化するおそれがある。]
- (4)肺機能障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]
- (5)低クロル性アルカローシス等の電解質失調のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]

2. 相互作用

(1)併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
マンデル酸ヘキサミン (ウロナミン)	本剤はヘキサミンの効果を減弱させることがある。	ヘキサミンは酸性尿中でホルムアルデヒドとなり抗菌作用を発現するが、本剤は尿のpHを上昇させヘキサミンの効果を減弱させる。

(2)併用注意（併用に注意すること）

本剤は制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄にも影響を与えることがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
大量の牛乳、カルシウム製剤	milk-alkali syndrome（高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等）があらわれるおそれがあるため、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。	機序：代謝性アルカローシスが持続することにより、尿細管でのカルシウム再吸収が増加する。 危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
代謝異常 ^{注)}	アルカローシス、ナトリウム蓄積による浮腫等
消化器	胃部膨満、胃酸の二次的分泌（リバウンド現象）

注) これらの症状があらわれた場合には、減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため減量するなど注意すること。

【薬効薬理】¹⁻⁴⁾

◇制酸作用

炭酸水素ナトリウム1gは約120mLの0.1mol/L HClを中和し、胃内のpHを上昇させる。この作用は速効性であるが、持続性に乏しく、また比較的大量の炭酸ガスを発生し、胃酸の二次的分泌を起こすことがあるといわれる。

◇アシドーシス改善作用

経口投与後腸管より吸収され、血中のアルカリ予備を増加させ、代謝性アシドーシスを改善する。

◇その他

尿をアルカリ化し、尿路系での尿酸沈着を予防する。また粘液溶解作用を持っているため、粘性分泌物の溶解、排出促進のため含嗽・吸入剤としても用いられる。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：炭酸水素ナトリウム

化学名：sodium bicarbonate

分子式：NaHCO₃

分子量：84.01

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、おいはなく、特異な塩味がある。水にやや溶けやすく、エタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。湿った空气中で徐々に分解する。

【包装】

500g

【主要文献及び文献請求先】

- 1) 梶本義衛 ほか, 臨床薬理学大系, 第8巻, 163, 261 (1972)
- 2) The United States Dispensatory, 27th ed., 1046 (1973)
- ※ 3) 第十六改正日本薬局方解説書, C-2671 (2011)
- 4) The Pharmaceutical Codex, 11th ed., 817 (1979)

【文献請求先】 扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術部門

〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号

TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706

(9:00~17:30/土日祝日を除く)



製 造 販 売 元

扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号

SG-910-910E